

2019年3月14日名古屋市経済水道委員会にて

「名古屋城天守解体予算を認めない決議を求める」請願書 高木予枝子 が述べます。

明日、市議会が閉会します。

2月22日期限までに請願書を提出しました。請願を委員会で訴える日が、なぜ今日の市議会閉会日の前日なのか、腑に落ちません。

文化庁から未だ木造天守の許可も出ていないのに、現天守解体が独り歩きして、9億を超える予算を通すことは許されません。

市民が主権者です。市民から集めた税金は一円たりとも、無駄に使うべきではありません。

市民のために減税をと訴えている河村市長が先頭に立って、木造化復元のために深く考えもせず、市民の税金を使い果たすことは矛盾の極みだと思います。

確実な見通しがないのに、何とかなんと幻想だけをふりまき、9億以上の解体費用を認めることは誰が考えてもおかしいことではないでしょうか？

木造化復元には多くの問題ある事がだんだん分かってきました。

解明すればするほど矛盾があらわになってきています。

責任逃れのために、決まったことだからと突っ張るだけです。

壊して石垣だけが残ったままなら、名古屋市は何をしているんだと、世界の恥になるかもしれません。

今の天守は文化庁からも価値があると指摘されています。

地元である名古屋市当局も議員も、その評価をしていません。

名古屋市民も知らされていません。

木造化に価値があると、何の根拠もなく、一人歩きさせています。

戦後復興のために苦勞をして作った先人が残した現天守は、何故？価値がないのか。

歴史を作るのは一部の偉人ではありません。ひとりひとりの人間が歴史を作っているのだと思います。

本当に名古屋を愛するなら、無視をしてはならないことだと思います。

昨日も、青空にそびえる天守閣を見に行きました。美しかったです。

壊してはならないと思いました。

まずは木造化復元だと、ここにいる多くの議員の方たちが、賛成したことがボタンの掛け違いだったと、4回の委員会傍聴をして、切に感じました。

どうか、真に名古屋を愛する気持ちで立候補してください。

初心に戻って下さい。